

令和3年度 東京都立秋留台高等学校全日制課程 学校経営計画

校長 河野 浩二

1 本校教育が目指す人間像と学校像

20年後、来たるべき共生社会の担い手として、社会に貢献するたくましい勤労者を育てる

～将来の日本を支える「納税者」を育成する学校～

育てたい 人間像	(1)	礼儀正しく、真面目にコツコツ努力できる人間
	(2)	自分の個性・特性を理解し、自分の夢や目標に向かって、自分のこだわりを発揮できる人間
	(3)	仲間と協働、共生しながら、社会を生き抜くことができる人間
目指す 学校像	(1)	とことん厳しく、とことん面倒見のよい学校
	(2)	入学した生徒全員が自分の進路を決めて卒業できる学校
	(3)	生徒の個性を生かし、望ましい職業観、勤労観を育む学校
	(4)	生徒、教職員、外部協力者が明るく元気な「チーム学校」

2 中期的目標と方策

中期 目標	生徒一人ひとりの進路実現を第一に考え、計画的、系統的な丁寧な進路指導を行うとともに、 学習指導や生活指導、部活動指導他全ての指導は、 生徒の進路実現、また、社会人としてより良く生きるための力の育成に 関連付けながら実施し、進路決定率 100%達成を常に目標とする。		
		「納税者」として、社会に出て仕事を続けていくための資質・能力を身に付けさせる。	
	(2)	あらゆる教育活動を通じて、社会で生き抜くための主体性、協働性、コミュニケーション能力等を育成する。	
	(3)	多くの外部人材、外部諸機関等との連携をさらに強化し、とことん面倒見のよい「チーム学校」を確立する。	
方策	(1)	「朝の30分授業」「セルフマネジメント」「ベーシック I」等特色ある授業の一層の充実、及び 全ての授業におけるアクティブ・ラーニング(以下、AL)や授業のユニバーサルデザイン化(以下、UD化)の推進	学習指導
	(2)	学びの基盤プロジェクト研究協力校としての授業研究の推進	
	(3)	「とことん厳しく、とことん面倒見のよい学校」を目指す全教職員の共通理解の深化	生活指導
	(4)	教職員全員体制の統一した生活指導の徹底	
	(5)	進路決定率100%を目指した全教職員による進路指導	進路指導
	(6)	生徒会活動、学校行事、HR活動、及び部活動の一層の充実	特別活動・部活動
	(7)	スクールカウンセラー(以下、SC)やユースソーシャルワーカー(以下、YSW)等外部人材・機 関の効果的な活用方法を確立し、生徒の心身の健康保持増進の一層の充実	安全・健康づくり

方 策	(8)	秋留台高校を理解し、真に秋留台高校への入学を希望する生徒の増加	募集・広報活動
	(9)	全ての外部人材の有効活用による「チーム学校」の確立と、教職員の働き方改革の推進	学校経営・組織体制
	(10)	経営企画室職員と生徒の生活実態・家庭環境等の情報を共有し、全校体制で取り組む教育活動、生徒支援の確立	経営企画室運営・施設設備管理

3 今年度の取組目標と方策

(1)教育活動の目標と方策

本計画策定時において、新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言が東京都に発令されている。都教育委員会は令和3年4月23日付『緊急事態宣言下における都立学校の対応について(依頼)』通知を都立学校に発出し、各校において感染防止対策等を一層徹底しながら、学校運営を継続することを指示した。

本校においては、昨年度同様、生徒登校時検温や校内の消毒、生徒への感染対策指導等を引き続き実施しながら、前例踏襲の教育活動から脱し、「新しい日常」に対応した教育活動に挑戦し、実践していくこととする。実践に当たって、全教職員はより効率的に業務を遂行し、より効果を上げることを心がけると同時に、必要に応じて、業務の精選を組織的に検討し、改善を行うこととする。また、コロナ禍等の影響により、進路実現、学力、心身の健康等に不安を抱える生徒が多数存在することを前提に、より丁寧に生徒に寄り添った指導を、外部人材・機関等と連携しながら、「チーム秋留台」として、全教職員が協力し、組織的に実践することとする。

学習指導	①	アキルスタンダードにより、生徒の実態に即した授業計画において、教科で育成すべき資質、能力の定着を目指す。
	②	コロナ禍における分散登校を想定し、生徒の実情に即した、対面での学習指導と生徒の家庭でのオンライン学習のあり方や指導方法、工夫等について、検証・研究を進める。
	③	AL・UD 化、ICT 機器・AI 教材等の効果的实践及び活用を通して、生徒の学習に対する興味・関心の向上及び基礎・基本の定着に組織的に取り組む。
	④	新学習指導要領改訂を踏まえ、新たな「総合的な探求の時間」授業計画を検討、立案する。また、「観点別学習状況評価」の対応準備を遅滞なく進める。
	⑤	遅刻防止及び各授業のチャイム始業等時間厳守の指導を徹底する。また、挨拶の励行・「赤態度」指導等授業規律の徹底により、落ち着いた学習環境の維持に努める。
	⑥	学びの基盤プロジェクト研究協力校として、生徒に「読解力」「自ら学ぶ力」を身につける授業研究・実践を充実させるとともに、東京都の教育施策の検証・研究に貢献する。
	⑦	若手教員の研究授業及び研究協議会等を活用し、学校全体で授業力向上に向けた研修に取り組むとともに、校外の研修に積極的に参加し、多方面から授業技術の向上を図る。
	⑧	読書活動を推進させるために、「ベーシックⅡ」や「読書マラソン」等を活用し図書館利用率を高め、読書習慣を身に付けさせる。
	⑨	東京都が展開する新たな通級指導の充実を図る。
生活指導	①	あらゆる教育活動を通して、良好な人間関係を築くうえで基礎となる、主体性、協働性、コミュニケーション能力を育成・向上させる。また、生活指導のあり方を検証し、工夫した指導実践により規範意識の向上を図る。
	②	「赤態度」指導を通して、授業規律の徹底を図る。あらゆる教育活動において、時間厳守、挨拶励行の指導を徹底する。
	③	生徒相談委員会を定期的に開催し、必要な生徒に対し個別の教育支援に係る指導の充実を図る。また特別支援教育・自立支援コーディネーターが中心となり、生徒理解に向けた研修を定期的実施し、教職員の指導力向上を図る。
	④	学校いじめ対策委員会を中心に、SC や YSW と連携を密にし、いじめの未然防止、早期発見・対応に組織的に取り組む。
	⑤	頭髪・服装等身だしなみ指導について、学校ルールを明確にし、保護者と連携を密にとり十分な理解を図りながら、必要に応じて「再登校指導」の実施を含め、毅然とした指導を行う。
	⑥	交通安全指導を充実させ、自転車通学におけるルール、マナーを遵守させる。
	⑦	学校設定科目「セルフマネジメント」の指導内容・方法等を工夫・充実させ、生徒の自己管理能力向上を図る。

進路指導	①	3年間の進路指導計画に基づく組織的、系統的な指導を実施する。進路ガイダンス、進路体験学習等の充実とともに個別、分野別の指導を更に充実させ、生徒の希望進路の実現に向けた意欲喚起を一層図る。
	②	全ての教育活動を進路実現に関連付けながら指導し、進路決定率の高水準を維持する。特に、既卒者就職先企業訪問による連携強化や新規企業の積極的な開拓により、生徒の進路希望実現の選択肢を拡げる。
	③	昨年度コロナ禍で中止された進路関係行事を再構築し、外部機関等を効果的に活用しながら、全学年において効果的な進路指導を組織的に実施する。
	④	英検、漢検、数検等検定受検指導や情報処理等の資格取得指導を積極的に行い、生徒の自己肯定感、学習意欲、進路実現意欲の向上を図る。
特別活動・部活動	①	アクティブプラン to2020や東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針を踏まえ、体育授業・部活動・学校行事等の一層の創意工夫を行い、全校生徒の体力の向上とともに、帰属意識・自己肯定感の向上を図る。
	②	年度当初部活動加入率を維持するための工夫を行うとともに、全部活動の活性化・充実を図る。特に文化系部活動による「文化の祭典」の充実に向け、一層の工夫を図る。
	③	生徒会活動の活性化に向けた工夫を実践する。また、意欲的な生徒が力、才能を発揮できる機会を新たに創出する。
	④	地域貢献活動を通して、東京都オリンピック・パラリンピック教育レガシーとして「ボランティアマインド」の一層醸成を図る。
安全・健康づくり	①	体育授業・部活動・学校行事等の安全管理を徹底しながら、生徒の安全意識の向上や危険回避能力の向上を図る。
	②	生徒の問題行動対応等について、特別支援教育及び自立支援コーディネーター、SC・YSW、他の外部人材等と連携しながら組織的な指導を実践する。
	③	定期健康診断等を適切な実施時期に設定し、生徒の健康管理を適正に実行する。あわせて、生徒の健康に係る個人情報管理を一層徹底する。
	④	防災教育研究指定校事業、及びセーフティ教室等安全教育に係る取組等、実施内容を工夫し、生徒の健康や安全に対する意識の向上を図る。
	⑤	学習等に落ち着いて取り組める現在の環境を維持するために、教室内の整理整頓及び美化活動を定着・習慣化し、安全・安心な学校を確立する。
募集・広報・地域活動	①	近隣小中学校、都立高校・特別支援学校、あきる野市及びあきる野市青年会議所・商工会等との交流・連携を促進し、社会に開かれた教育課程を実践するとともに、特長的・先進的な教育実践を更に充実させながら、幅広く募集広報活動を展開する。また、学校開放事業等を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。
	②	HPの迅速な更新などを通して、外部に情報発信を積極的に行う。
	③	学校説明会、学校見学会、個別相談会を充実させ、広く秋留台高校の周知を図る。
学校経営・組織体制	①	新学習指導要領年次進行を見据えた、新教育課程に基づく教育活動の準備、及び中期的な学校の特色づくりの検討を推進する。
	②	主幹教諭、主任教諭、教諭各職層の職責を明確にし、業務を遂行させるとともに、OJT 診断基準、執務ガイドラインに基づき、学校経営、組織マネジメントの改善に努める。
	③	全ての外部人材を有効活用することにより「チーム学校」を作り上げ、生徒への最適な指導を実践するとともに、教職員の働き方改革を推進する。
	④	全ての教育活動から体罰を根絶する。
経営企画室運営・施設設備管理	①	自律経営推進予算、学校徴収金等について、適正執行・管理を実施するとともに、遅延のない予算執行や費用対効果を意識した予算要望のあり方等を全教職員に徹底する。
	②	一般需用費のセンター執行を適切に行う。
	③	校内の施設の安全管理及び修繕を推進する。

(2)今年度の数値目標

①	学校評価における生徒学校満足度の向上	肯定回答80%以上
②	進路決定率の向上	100%
③	退学者の減少	0名
④	転学者の減少	10名
⑤	全ての教員による相互授業参観3回実施(同教科1、他教科2)	100%
⑥	検定合格者、資格取得者数の向上	前年度比120%以上
⑦	一年間の延べ遅刻回数の減少	前年度比90%以下
⑧	統一体カテスト本校生徒平均値の向上	前年度比105%以上
⑨	部活動加入率の向上(年度末加入率も調査)	70%以上
⑩	文化の祭典 来場者数の増加	200人以上
⑪	生徒相談委員会、ケース会議等の開催	50回
⑫	令和4年度入学生の学校説明会等参加率の向上	100%
⑬	ホームページ更新の増加	200回以上
⑭	一般需用費センター契約集約率	65%